

## 消防技術戦略会議（第4回）

1 日時：令和7年10月27日（月） 10時30分～12時00分

2 場所：主婦会館プラザエフ 9階 スズラン

3 出席者（敬称略○五十音順）

(1) 【構成員】

三宅座長、板倉構成員、岡田構成員、加藤構成員、熊谷構成員、寶構成員、田中構成員、徳田構成員、中西構成員、林構成員、廣井構成員、細川構成員、柳沢構成員

(2) 【協力消防機関】（敬称略○五十音順）

札幌市消防局 上山救急担当部長

川崎市消防局 小金澤予防部長

千葉市消防局 田村予防部長

さいたま市消防局 宮崎警防部長

北九州市消防局 山本警防部長

4 議事

(1) 消防技術の重点分野について

(2) 消防技術戦略ビジョン（仮）素案について

5 議事概要

議事(1)(2)について事務局から説明が行われ、その後、意見交換を実施した。主な意見交換の内容は以下のとおりである。

### 【消防技術の重点分野及び消防技術戦略ビジョン（仮）について】

<消防を取り巻く環境について>

○ 熱中症による救急搬送の増加についても視野に入れるべき。

<重点分野の設定について>

○ ロボット・ドローンの活用による活動可能範囲の拡大については、CBRNE 災害への対応力向上にもつながる。

○ 人間拡張技術の活用による個人の能力向上については、視覚の拡張だけでなく、聴力の拡張にも視野を広げることで、微細な音声の検知により要救助者を早期に発見することにもつながる。

○ IoT 技術の活用による連携強化については、関係機関との連携に当たり、セキュリティポリシーの遵守について、留意する必要がある。

○ 消防隊員同士の連携については、特に、指揮本部等における情報集約と安全管理の高度化にニーズがある。

○ 消防活動等で活用する工学技術の開発だけでなく、例えば制度の検討などに資する知見の蓄積など、消防技術の社会実装に必要な合意形成を進めていくための技術についても重要で

ある。

<重点分野の推進に向けた取組について>

- 重点分野に関する技術を実現していくためには、これらの技術に関連する基盤・基礎技術の研究が重要である。また、研究機関や企業等との連携によりその成果を活用していくことが重要である。
- 海外の先進技術等の情報収集もしっかりやっていく必要がある。
- AIの学習に必要な知識や経験知等については、国と企業等が協力して収集しデータベース化して活用することが重要である。
- 現行制度で想定していない新技術の導入にあたっては、現行の基準が十分に整備されていない場合が考えられるが、その場合の環境整備にあたっては、十分な安全確認が必要である。

<取組の着実な実行>

- 消防分野以外の技術を消防分野に応用することや、消防技術を他分野に応用する視点が重要である。
- 重点分野の進捗状況を踏まえ、現場検証等のフェーズで取り組むものと中長期的な視点で研究開発して取り組むものとを整理して進めていく必要がある。
- 消防機関だけでなく、消防設備を使用する施設管理者なども含め、幅広い現場ニーズや消防を取り巻く環境、技術動向の変化に合わせて、必要な見直し等を行っていく必要がある。
- 国民はもとより、研究機関や企業等、消防機関に対し、消防分野における技術革新の意義や事業の必要性、妥当性、有用性を、透明性をもって発信していく必要がある、
- 研究者の養成や獲得が重要である。そのためには、研究機関や大学、学会、消防機関が連携して、人材交流等の取組を進める必要がある。

(以上)